

令和  
3  
年  
度

# 発掘調査速報 2021

令和3年7月13日(火) - 8月29日(日)



# 目 次

ごあいさつ .....	I
令和2（2020）年度発掘調査 実施箇所位置図 .....	2
令和2（2020）年度水中遺跡確認調査 実施箇所位置図 .....	4
大美御殿跡・首里真和志村跡 .....	6
楚辺徳地原遺跡・楚辺親見原遺跡 .....	10
伊佐上原遺跡群A地点・伊佐上原南遺跡 .....	14
水中遺跡確認調査 .....	18
県内出土遺物保存処理 .....	25
沖縄歴史年表 .....	28

## 【凡例】

1. 本図録は、沖縄県立埋蔵文化財センター企画展『発掘調査速報 2021』（開催期間：令和3（2021）年7月13日～8月29日）の展示を補完するものとして編集・作成しました。
2. 許可なく本書の複製及び転載、複写を禁じます。

# ごあいさつ

沖縄県内には、貝塚、グスク、集落跡、近世墓などを含め約4,700か所の遺跡が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、先人たちが残したこれらの埋蔵文化財の発掘調査を行い、考古学的見地から検証した成果を沖縄県の歴史・文化の解明や研究に役立てています。

通常、発掘調査が始まってから、土器や石器などの出土遺物を整理し、報告書を刊行するまでには数年の歳月を必要とします。そこで当センターでは、発掘調査で得られた最新の成果を、いち早く県民をはじめとする多くの方々に見ていただきたいとの思いから、前年度に実施した発掘調査の成果を報告する「発掘調査速報」展を毎年開催しています。

今年度は、当センターが令和2（2020）年度に実施した「大美御殿跡・首里真和志村跡」、「楚辺徳地原遺跡・楚辺親見原遺跡」、「伊佐上原遺跡群A地点・伊佐上原南遺跡」、「水中遺跡確認調査」などの発掘調査の成果を出土遺物や写真パネルなどを通して紹介します。また令和2（2020）年度に作成した白保3号人骨のデジタル復元レプリカや、金属製品や木製品などの保存処理についても紹介します。

本展を通して、多くの方々が遺跡や遺物などに接し、先人たちの暮らしに想いを馳せるとともに、沖縄の歴史と文化に対して親しみを持ち、その価値や重要性について理解を深める一助となれば幸いです。

令和3（2021）年7月13日

沖縄県立埋蔵文化財センター  
所長 瑞慶覧 勝利

# 令和2（2020）年度 発掘調査



そべ とくちばるいせき そべ おやみばるいせき  
楚辺徳地原遺跡・楚辺親見原遺跡

所在地 跳谷村字楚辺（トライ通信施設内）

時代 縄文時代後・晚期 グスク時代



うふみうどうんあと しゅりまわ しむらあと  
大美御殿跡・首里真和志村跡

所在地 那覇市首里真和志町（首里高校内）

時代 グスク時代 近世

伊江島

伊江村

水納島

瀬底島

恩納村

うるま市

跳谷村

嘉手納町

沖縄市

北谷町

宜野湾市

北中城村

中城村

浦添市

西原町

与那原町

南風原町

豊見城市

南城市

八重瀬町

糸満市

瀬長島

# 実施箇所位置図



いさういばるいせきぐん  
伊佐上原遺跡群A地点・伊佐上原南遺跡

所在地 宜野湾市伊佐（普天間飛行場内）

時代 繩文時代、グスク時代、近世・近代

# MAP

## 水中遺跡確認調査

令和2（2020）年度 実施箇所位置図



あごの浦海底遺跡

所在地 座間味村  
時代 グスク～近代

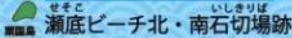


東奥武（オ一八）海底遺跡

所在地 久米島町 時代 グスク

せそこ 濱底ビーチ北・南石切場跡

所在地 本部町 時代 不明



所在地 座間味村 時代 近代



屋根部沖海底遺跡

所在地 石垣市 時代 近世



石西礁湖海底遺跡群第3地点

所在地 竹富町 時代 近世・近代



みやらわん  
宮良湾海底遺跡

所在地 石垣市

時代 グスク～近世



せきせいしょうこ  
石西礁湖海底遺跡群第1地点

所在地 竹富町 時代 近世・近代



せそこ  
瀬底沖海底遺跡

所在地 本部町 時代 近世



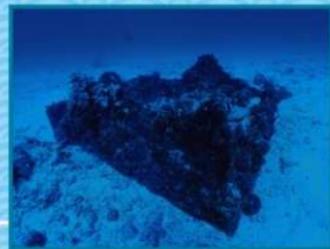
さんげし  
レッドビーチ桟橋遺構

所在地 金武町 時代 近代?



たかだ  
高田海岸沖海底遺跡

所在地 多良間村 時代 近世



ヌルガン沖海底遺跡

所在地 与那国町 時代 近世・近代



やまとじ  
八重干瀬海底遺跡群第1～3地点

所在地 宮古島市 時代 近世・近代

9



みやぐに  
宮国沖  
所在地 宮古島市  
時 代 近世

くりまじま  
来間島沖海底遺跡

所在地 宮古島市 時代 グスク時代



あらかね  
新川沖海底遺跡

所在地 与那国町 時代 近世・近代

16 17



うふみうどうんあと しゅりまわしむらあと  
**大美御殿跡・首里真和志村跡**

ゲスク時代 近世

Data

事業名 首里高校内埋蔵文化財発掘調査 所在地 那覇市首里真和志町（首里高校内）

調査期間 令和3（2021）年3月～令和3（2021）年5月

調査面積 890m<sup>2</sup> (VII区)

## はじめに

本調査は首里高校の校舎改築工事に伴う発掘調査で、校舎改築工事の計画と連動し、いくつかの調査区に分けて順次発掘調査を行っています。

令和2（2020）年度ではVII区と呼んでいる場所の発掘調査が行われ、その部分は旧校舎が建っていました。一部では建物のコンクリート基礎は格子状に建造されていますが、その基礎と基礎の間には遺跡が残っていることから、その間の調査が行われました。

VII区では琉球王国の別邸として建られ、冠婚葬祭を行う場だったと言われている大美御殿跡やゲスク時代の集落跡の首里真和志村跡、そして、琉球王国の世子が住んでいたとされる中城御殿跡が見つかると想定されました。

## これまでの調査成果

平成25（2013）年度から本格的な調査が開始され、中城御殿にある石積みや門、井戸など多くの遺構が確認されています。さらに平成30（2018）年度の調査では、中城御殿と大美御殿の間にある道跡が確認されています。

## VII区の調査成果

**大美御殿跡：**当時の生活面やその造成工事の痕跡を確認しました。当時の生活面では建物の柱跡と考えられる遺構がいくつか確認されましたが、後世の破壊などもありその規模などはわかりませんでした。

**首里真和志村跡：**当時の建物の柱跡と考えられるものや、畑の跡を確認しました。旧校舎建設時に一部破壊されており、建物のコンクリート基礎の間から発見されその規模の全容を知ることはできませんでしたが、区画と思われる大きな溝と一緒に小さな三角状の鍔跡が多数確認されました。

遺物は、小片が多く中国産青磁や褐釉陶器が多く、ゲスク時代のものだと考えられます。

また、中城御殿と大美御殿の間の道跡も確認されました。この遺構は平成30（2018）年度の調査でも発見されており、その南側の延長部分だと考えられます。



VII区調査区図面



建物基礎コンクリート間の作業風景



大美御殿の建物跡か



首里真和志村跡の耕作痕



道跡

# そべとくちばる 楚辺徳地原遺跡・楚辺親見原遺跡 そべおやみばる

縄文時代後・晩期 ゲスク時代

## Data

事業名	トライ通信施設内発掘調査	所在地	読谷村字楚辺（トライ通信施設内）
調査期間	令和2（2020）年5月7日～令和3（2021）年3月8日		
調査面積	6,682m <sup>2</sup> （徳地原遺跡C区:3,953m <sup>2</sup> 、D区:1,225m <sup>2</sup> 、F区:476m <sup>2</sup> 、親見原遺跡D区:1,028m <sup>2</sup> ）		

## はじめに

読谷村に所在する米軍基地トライ通信施設内の施設等建設工事に伴い、現状のまま残すことができない埋蔵文化財の記録保存を目的とした緊急発掘調査を令和元（2019）年度より実施しています。

令和2（2020）年度は楚辺徳地原遺跡（C・D・F区）および楚辺親見原遺跡（D区）の発掘調査を行い、縄文時代後・晩期～ゲスク時代の遺構や遺物が出土しました。特に、ゲスク時代の掘立柱建物跡は約100棟確認され、当時の集落の様子を伺い知ることができます。

## 調査成果

**縄文時代**：楚辺徳地原遺跡では、竪穴建物跡が5棟確認されました。いずれも岩盤が露出する周辺に確認され、平面の形はややいびつな方形でした。しかし、後の耕作や基地の造成などで上面やその一部は失われており、土器や石器・石材を含む埋土を掘り下げるときわざかに床面付近が残っている状態でした。床面は土で平らに整地され、火を焚いた跡も確認されました。

楚辺親見原遺跡では、迫地（小さい谷）に縄文時代後・晩期の土器や石器を含んだ遺物包含層の堆積が確認されました。本遺跡より標高が2m程高くなる楚辺徳地原遺跡では、竪穴建物跡が確認されていることから、縄文時代の遺跡本体は、より高台の丘陵地へ分布する可能性があります。



徳地原C区 竪穴建物跡検出状況



徳地原C区 竪穴建物跡の遺物出土状況



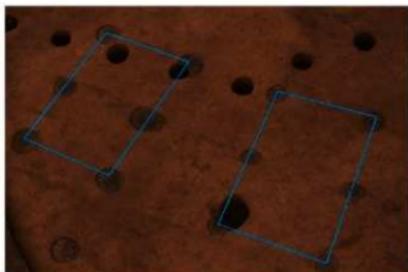
親見原D区 迫地に堆積する遺物包含層

**グスク時代**：楚辺徳地原遺跡では、掘立柱建物跡が約100棟確認されました。掘立柱建物は柱穴（ピット）を掘り、そこへ柱を立てて、建物の骨組みを作るため、ピットが長方形形状に並ぶことが特徴です。また、建物を構成するピットの数により、小型建物（4本柱、6本柱、9本柱）、それより大きな大型建物に分けることができます。本遺跡では、これらの建物跡が重なり合って確認されたことや、ピット内からグスク時代のグスク土器やカムイイヤキを中心にくびれ平底土器（弥生～平安並行期）も出土していることから、当時の人々が建て直しを行いながら、この場所で活動していたことが分かりました。また、長方形形状の土坑も確認されました。このような形の遺構は他の遺跡では土坑墓であったことから、この遺跡も土坑墓の可能性もありますが、人骨や副葬品が出土しておらず、断定することはできませんでした。

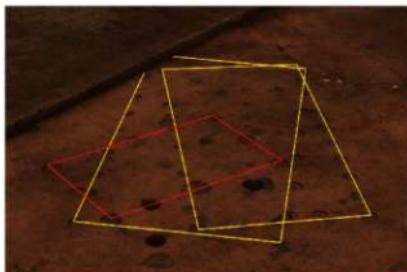
楚辺親見原遺跡では、グスク土器を含む遺物包含層やピットが確認されました。迫地という立地から、グスク時代は耕作地として利用されたと考えられます。



徳地原C区 遺構完掘状況



徳地原D区 小型建物（6本柱・青）



徳地原D区小型建物（9本柱・赤）と大型建物（黄）



徳地原C区 ピット内出土のくびれ平底土器  
(弥生～平安並行期)



徳地原C区 長方形状の土坑  
(グスク時代)



徳地原D区 柱痕  
(グスク時代)



徳地原D区 ピット内出土のグスク土器  
(グスク時代)



徳地原D区 ピット内出土のカムイヤキ  
(グスク時代)



徳地原F区 ピット内出土の根石  
(グスク時代)



親見原D区 遺物包含層検出状況  
(グスク時代)

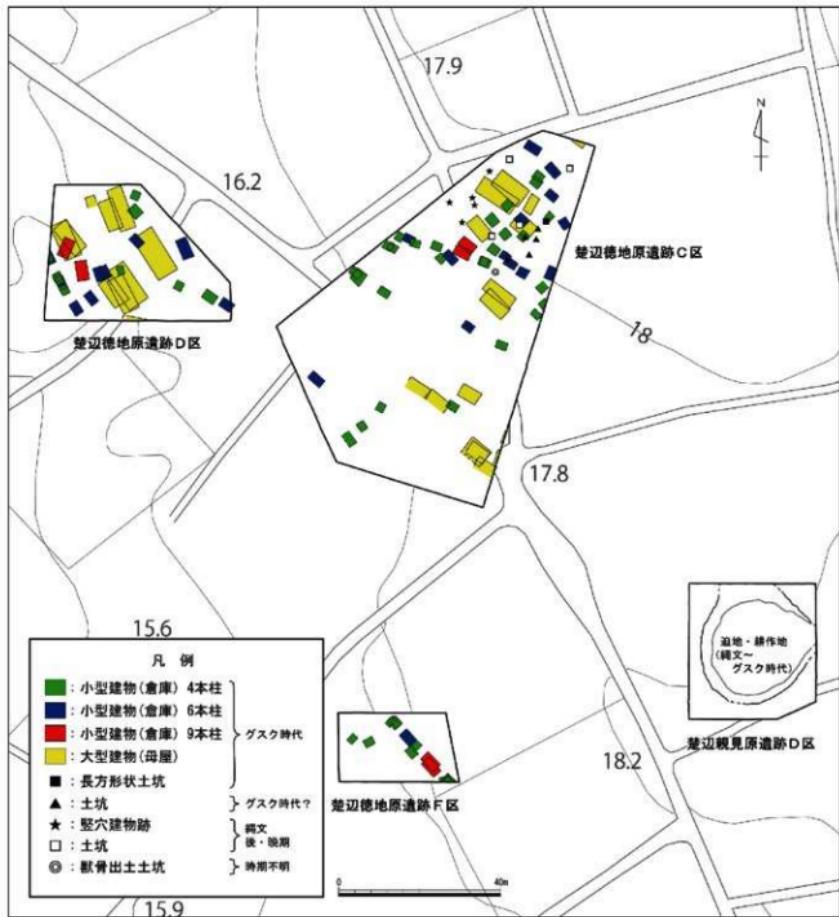


親見原D区 ピット検出状況  
(グスク時代)

**時期不明**：獣骨を含む土坑が確認されました。骨の特徴や出土位置から、埋葬された仔牛や仔馬などの草食動物と推定されます。また、出土した骨は頭部～胸部しかありませんでした。しかし、周辺の土の変色範囲から埋葬された当時は、全身が揃っていたと考えられます。



徳地原 C 区 土坑内出土の獣骨



令和2（2020）年度 楚辺徳地原遺跡（C・D・F区）および楚辺親見原遺跡（D区）遺構略図

# い　さ　う　い　ー　ば　る 伊佐上原遺跡群A地点・伊佐上原南遺跡

縄文時代 ゲスク時代 近世・近代

## Data

事業名	基地内文化財分布調査	所在地	宜野湾市伊佐（普天間飛行場内）
調査期間	令和3（2021）年1月26日～令和3（2021）年3月25日		
調査面積	65m <sup>2</sup>		

## はじめに

基地内文化財分布調査は、沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地の中にどのような遺跡があるのかを把握することが目的で、平成9（1997）年度から実施しています。普天間飛行場内では、現在までに106か所の遺跡が確認されています。今回の調査は、平成15（2003）年度に発見された伊佐上原遺跡群A地点（縄文時代・ゲスク時代）と、令和元（2019）年度に発見された伊佐上原南遺跡（近世・近代）について、より正確な範囲と性格を明らかにすることを目的としました。

発掘調査の結果、各時代の遺構や遺物を確認することができました。

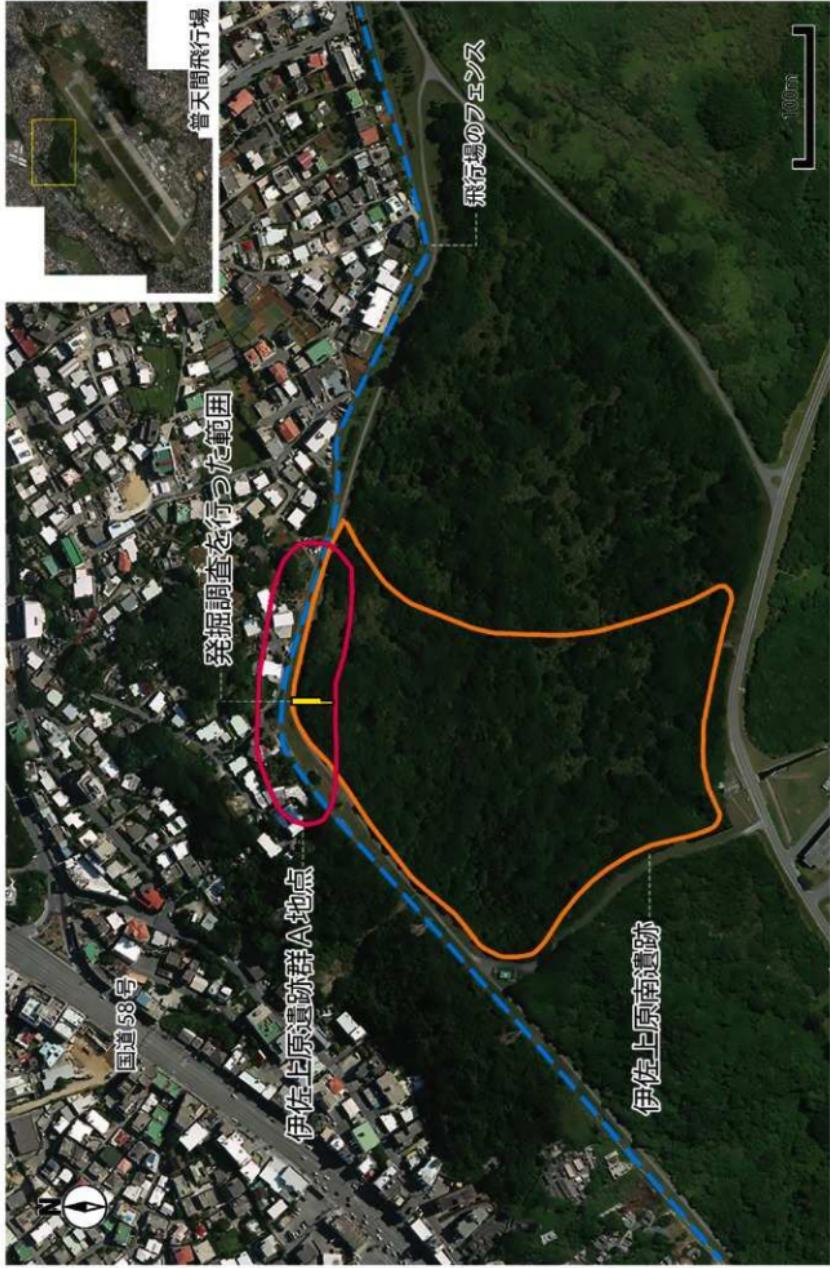
## 伊佐上原遺跡群A地点の調査成果

**縄文時代**：長さ1m前後の穴が数基検出されました。穴の深さや用途は不明です。また、土器や石器などが出土しました。

**ゲスク時代**：直径40cm、深さ15cmほどの穴が1基検出されました。穴の用途は不明です。また、中国産陶磁器やカムィヤキなども出土しました。

## 伊佐上原南遺跡の調査成果

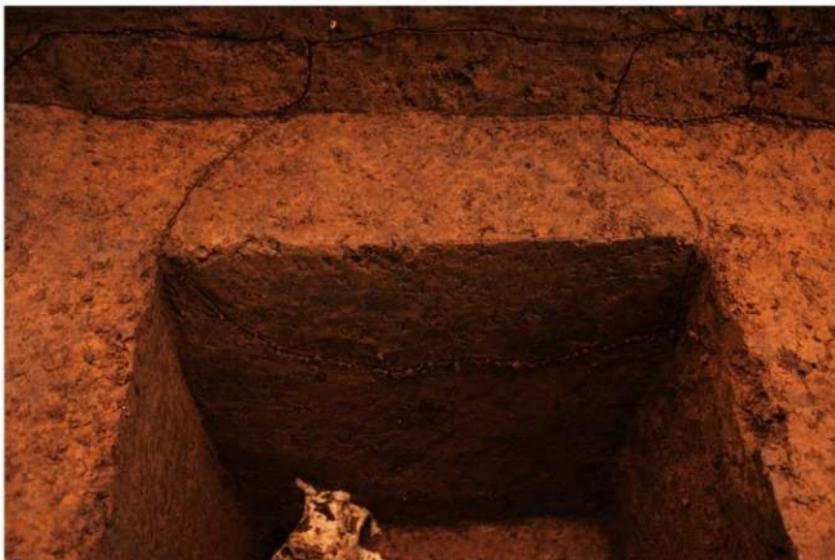
**近世・近代**：調査区一帯を除草したところ、10センチ前後の石灰岩を雑に積んだ石積みが確認されました。この石積みは、1mほどの段差が出来ている部分に積まれていることから、土留めのために造られたようです。また、掘り下げを行った結果、直径30センチ前後の穴が数基検出され、中国産や本土産、沖縄産の陶磁器などが出土しました。



発掘調査範囲および遺跡位置



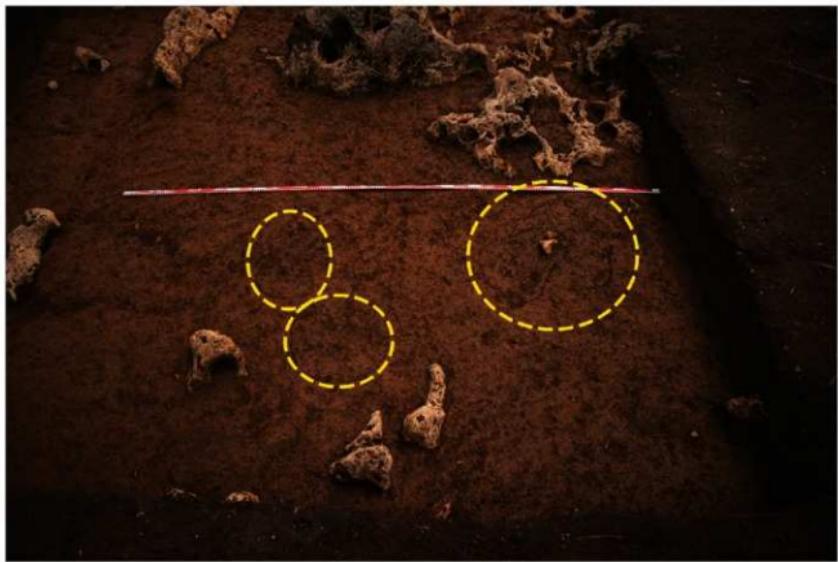
伊佐上原遺跡群 A 地点 繩文時代の遺構群



伊佐上原遺跡群 A 地点 ゲスク時代のピットの断面



伊佐上原南遺跡 近世・近代の石積み



伊佐上原南遺跡 近世・近代のピット群

# 水中遺跡確認調査

グスク時代 近世・近代

## Data

事業名 県内遺跡発掘調査等（水中遺跡確認）

所在地 沖縄県内各地

調査期間 令和2（2020）年7月～令和3（2021）年3月

調査面積 一

## はじめに

海に囲まれた沖縄県では、人の移動や物資の運搬などで古い時代から海を利用しながら生活してきました。海の利用とは、サンゴ礁に生息する魚貝類を獲得し食糧資源とすることや、海上移動、船を停泊するため港として利用することを言います。海と人との関わりを物語るよう、県内各地で水中遺跡が確認され、平成21（2009）年度までに143か所が見つかっています。県内で確認されている水中遺跡には、以下の6種類があります。

**沈没船関連の遺跡** 船舶の沈没によって生じた遺跡。船体や積荷などが確認されます。<sup>\*</sup>写真1,2

**水中遺物散布地点** 海難事故に遭遇した船舶が、沈没を避けるため投棄した積荷（陶磁器など）が確認される遺跡です。<sup>\*</sup>写真3

**港湾遺跡** 港として利用した結果形成される遺跡で、海岸から海底にかけて船舶の停泊具（碇・錨）などが確認されます。また積荷なども見られます。<sup>\*</sup>写真4

**海岸遺物散布地点** 海浜部にある集落の人々が、漁労活動などの海岸利用の結果形成される遺跡で、様々な遺物がみられます。

**生産遺跡** 塩田跡・魚垣跡・石切場跡・スラ所跡など、潮間帯の海岸に所在している遺跡。<sup>\*</sup>写真5

**貝塚** かつて地上にあった貝塚が、沈降して形成された遺跡。



写真1 イギリス軍艦プロビデンス号の船釘  
(八重干瀬海底遺跡群第1地点)



写真2 オランダ船ファン・ポッセ号の積荷  
(高田海岸沖海底遺跡)



写真3 海底に散布している沖縄産無釉陶器  
(石西礁湖海底遺跡群第1地点)



写真4 船舶の積荷と考えられる沖縄産施釉陶器  
(阿護の浦海底遺跡)



写真5 北原海岸の石切場跡（久米島）

陸上にもあるゾウ  
水中遺跡の文化財

水中遺跡に間違する文化財として、かつて海底にあったものが陸上に引き揚げられて転用・保管されているものもあります。

皆さんの周りで変わった石材などが利用されているところがありませんか？



山田メーガーの井桁（碇石を転用）  
(恩納村)



ファン・ボッセ号の鉄錨  
(多良間村ふるさと民俗学習館・関連文化財)

## 令和2（2020）年度の調査

当センターでは、令和元（2019）年度から、沈没船に関連すると考えられる遺跡を中心に、現況確認や遺物の散布状況を確認する調査を実施しています。これらの調査は、県内の水中遺跡をどのように保護し、活用していくか考えるための基礎資料作成を目的としています。

今回の速報展では、令和2（2020）年度に実施した調査について紹介します。

令和2（2020）年度は、宮古・八重山諸島を中心として計17か所の水中遺跡で確認調査を実施しました。また、久米島の東奥武（オーハ）海底遺跡では海底地形測量を行いました。

No.	遺跡名	種類	市町村	時代
①	レッドビーチ桟橋遺構	港湾遺跡	金武町	近代？
②	瀬底ビーチ北・南石切場跡	生産遺跡	本部町	不明
③	瀬底沖海底遺跡	港湾遺跡	本部町	近世
④	糸満沖	(調査中)	糸満市	近世
⑤	阿護の浦海底遺跡	港湾遺跡	座間味村	グスク～近代
⑥	古座間味沖	港湾遺跡	座間味村	近代
⑦	東奥武（オーハ）海底遺跡	水中遺物散布地点	久米島町	グスク
⑧	来間島沖海底遺跡	水中遺物散布地点	宮古島市	グスク
⑨	八重干瀬海底遺跡群第1～3地点	沈没船関連の遺跡 水中遺物散布地点	宮古島市	近世・近代
⑩	宮国沖	水中遺物散布地点	宮古島市	近世
⑪	高田海岸沖海底遺跡	沈没船関連の遺跡	多良間村	近世
⑫	屋良部沖海底遺跡	港湾遺跡 沈没船関連の遺跡	石垣市	近世
⑬	宮良湾海底遺跡	港湾遺跡	石垣市	グスク～近世
⑭	石西礁湖海底遺跡群第1地点	水中遺物散布地点	竹富町	近世・近代
⑮	石西礁湖海底遺跡群第3地点	沈没船関連の遺跡	竹富町	近世・近代
⑯	ヌルガン沖海底遺跡	港湾遺跡	与那国町	近世・近代
⑰	新川沖海底遺跡	港湾遺跡	与那国町	近世・近代

令和2（2020）年度に調査を実施した水中遺跡一覧

※①～⑰の番号は実施箇所位置図（p.4～p.5）を参照

水中遺跡をまもる  
世界の取り組み。

水中遺跡の取り扱いについては、沖縄県内のみならず日本はもとより、世界中でどのように保全管理していくべきかという検索がされており、現在の国際状況に関わる重要なことの一つです（岩瀬2012）。県内でも水中遺跡の見学会など（久米島・東奥武海底遺跡・石垣島・屋良部沖海底遺跡・恩納村・石切場跡や湘間帯遺跡）が実施され、その活用について実践されています。



引用・参考文献：岩瀬脳文 2012『文化遺産の眠る海 水中考古学入門』

## 確認調査の流れ

令和2（2020）年度の調査は当センターが平成16（2004）年～平成21（2009）年（平成18（2006）年を除く）に実施した分布調査で確認された遺跡を主な対象としています。

### 《1》潜水

潜水調査を行い、海底で遺物などを確認します。



遺物の発見



遺物の確認

### 《2》GPS 設置

遺物の位置情報（緯度経度）を取得するために、海上に浮かんだブイに設置したGPSで記録をとります。その際、ブイが遺物の真上にくるようにします。



ブイとGPS機器



海面のブイを遺物の真上まで引っ張る

### 《3》写真撮影

GPS記録のため、時間・水深などを記録し、遺物の写真撮影を行います。



水深と時間の記録



遺物の写真撮影

### 《4》観察記録・実測

遺物の観察記録を行います。計測や実測などを行うこともあります。



遺物の計測



水中での実測

### 《5》遺物の保存

水中で確認した遺物は、原則として引き揚げず、見つけた場所から動かさないようにしていますが、波や潮流の影響で流されてしまう可能性のある遺物は、水中から引き揚げて当センターで保管する場合もあります。

動かさないで!  
見て楽しもう!

水中で見つかる陶磁器なども大事な水中遺跡を構成する大事な要素です。

もし遊泳中に見つけた場合は、動かさずに見て楽しむようにしましょう。



## 調査遺跡



阿護の浦海底遺跡

種類 港湾遺跡 所在地 座間味村

かつて進貢船や貿易船が風待ちのため寄港した場所と伝えられています。様々な時代の遺物が見つかるところから、長期間にわたり頻繁に利用されていたことがわかります。



東奥武（オーハ）海底遺跡

種類 水中遺物散布地点 所在地 久米島町

海岸や海底に多くの中国産陶磁器（青磁・白磁）が確認されている遺跡。海難事故に伴って投棄された遺物と考えられています。



来間島沖海底遺跡

種類 水中遺物散布地点 所在地 宮古島市

海岸や海底に中国産陶磁器が確認されている遺跡。青花や青磁などバリエーションが豊富です。



八重干瀬海底遺跡群第1地点

種類沈没船関連の遺跡 所在地 宮古島市

1797年に座礁・沈没したとされるイギリス軍艦プロビデンス号の積荷と考えられる金属製品やガラス製品などが確認されています。



八重干瀬海底遺跡群第2・3地点

種類 水中遺物散布地点 所在地 宮古島市

海底には多数の沖縄産陶器が確認されています。近世へ近代頃の山原船などの海難事故に伴う積荷の可能性があります。



高田海岸沖海底遺跡

種類 沈没船関連の遺跡 所在地 多良間村

1857年にオランダ商船ファン・ボッセ号が座礁・沈没し、その積荷と考えられるものが見つかっています。この遺跡は水中遺跡では県内唯一の史跡であり、「オランダ商船遭難の地」として多良間村指定史跡となっています。



屋良部沖海底遺跡

MAP  
12

**種類** 港湾遺跡・沈没船関連の遺跡 **所在地** 石垣市

海底には保存状態が良好な沖縄産陶器や四爪鉄錨が確認されています。今まで確認されている鉄錨は8本でしたが、新たに5本確認しました。複数の船舶がこの海域で停泊していたことを示しており、まだまだ海底に残されているかもしれません。



石西礁湖海底遺跡第3地点

MAP  
15

**種類** 沈没船関連の遺跡 **所在地** 竹富町

表面に釘の痕跡が残る木材が発見されており、船体の一部と考えられます。

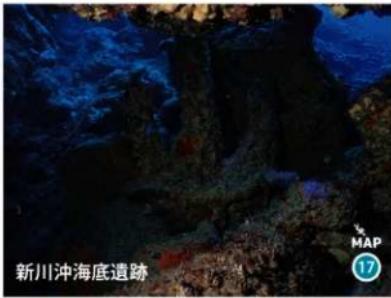


石西礁湖海底遺跡第1地点

MAP  
14

**種類** 水中遺物散布地点 **所在地** 竹富町

この海域には複数の島があり、遺跡の位置を島名で表現することが困難であるため、石垣島以西と西表島以東の海域を示す「石西礁湖」の呼称を用いています。この遺跡では、海底に沖縄産陶器が多く確認されています。



新川沖海底遺跡

MAP  
17

**種類** 港湾遺跡 **所在地** 与那国町

海底から四爪鉄錨やストックレスアンカーなど、様々な時代に使用された鉄錨が確認されています。この海域がどのように利用されていたのかはまだ不明な部分が多く、今後の研究が必要です。

※写真右下の番号は実施箇所位置図（p.4~p.5）を参照

水中遺跡をみつけ  
たら教育委員会へ

沖縄県内には、まだまだ確認されていない水中遺跡があると考えられます。主に潮間帯部分で、潮が引いているときや海岸に打ち上げられた遺物が見つかるかもしれません。遺跡かな？と思ったら、見つけた場所の市町村の教育委員会にご一報ください。



## 海底地形測量

久米島の東奥武（オーハ）海底遺跡の海域でグリーンレーザー搭載ドローンを用いて、海底地形測量を実施しました。この海域では、海底に中国産陶磁器が確認されていますが、陶磁器が集まる部分や海底地形との関連性を調べる基礎資料が必要です。今後、この海底地形測量図をもとにして調査を実施する予定です。

図1は空中写真測量図（オルソ画像）です。図2は水深に応じて色分けした段彩図になつており、水深の浅い部分は暖色系、水深の深い部分は寒色系で表現しています。

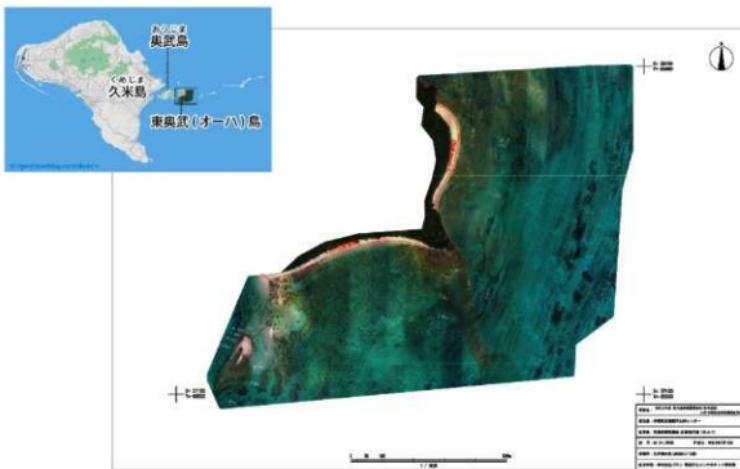


図1 空中写真測量図（オルソ画像）

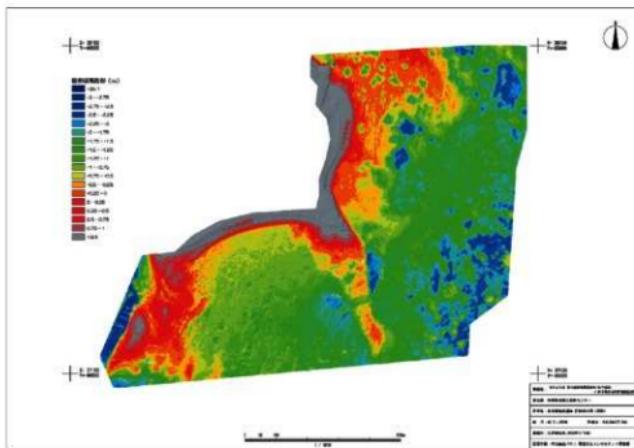


図2 詳細地形図（段彩）

# 県内出土遺物保存処理

## 事業の目的

沖縄県立埋蔵文化財センターが発掘調査を行って出土した遺物の中には、金属製品や木製品、石造物などの時間とともに劣化していく材質のものが含まれます。この事業は、これらの遺物について長期的な保存や公開などに活用するため、保存処理を行っていく事業です。

## 金属製品の保存処理

令和2（2020）年度は、なかぐすくうどくん中城御殿跡から出土した青銅製の飾り金具類9点の保存処理を実施しました。いずれも錆さびの生成や亀裂きりつなどにより、劣化の進行が見られたため保存処理を行う必要がありました。保存処理には専用の機材や薬品が必要なため、専門とする業者に委託しました。専門的なクリーニングと化学的な保存処理を行ったことで、劣化への耐久性が増し、長期的な保存や積極的な活用ができるようになりました。

また、金属製品の簡易保存処理も実施しており、調査によって出土した金属製品は、錆の進行を防ぐために、空気・水を通さない特殊な袋に無酸素状態で密封して保管しています（三菱ガス化学：RPシステム）。



## 木製品の保存処理

発掘調査では、まれに遺跡から木製品が出土することがあります。近年、伊藤幸司氏らを中心<sup>伊藤幸司</sup>に糖類であるトレハロースを用いた木製品保存処理方法について研究が深められ、従来の処理方法より安価で安全・短期間で保存処理を行える方法として注目されています。

今回、トレハロースを用いた木製品の保存処理を試験的に実施しました。対象とした遺物は、<sup>わたんちむらあと</sup>渡地村跡（那覇市）から出土した木製品です。保存処理後の状況としては、遺物は全体形状を保っており、表面は木材の質感を保持しており状態は安定しています。今後も当センターでは、木製品の保存活用に向け、トレハロース法について研究していく予定です。



① トレハロース含浸処理



② 取り上げ後



③ 風乾



④ 表面処理作業



⑤ 表面処理前



⑥ 表面処理後



処理前



処理後

## 発掘調査のきっかけ（契機）とは

一概に発掘調査といっても、そのきっかけ（契機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的な手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

発掘調査は、大きく「学術調査」と「行政調査」のふたつに分けることができます。「学術調査」とは、大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査で、学術的な目的意識（研究テーマ）を持って取り組されます。

一方、「行政調査」とは、行政機関（教育委員会など）がおこなう発掘調査で、その契機や原因によって大きく3つに分ることができます。

まず、遺跡（埋蔵文化財）の適切な保護を目的とし、その所在・内容などを把握するための調査があります。

次に、保存・活用のための発掘調査があります。重要な遺跡の評価をおこなうための調査や、史跡指定された遺跡の整備・活用のために行われる調査も含まれます。

最後に、記録保存のための調査があります。この調査は、開発側との調整によって、現地保存ができなくなる遺跡について、開発に先立ち発掘調査をおこなうものです。この調査によって得られた記録類は、消滅した遺跡に代わって、遺跡の内容を後世に伝えるものとなります。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりありません。発掘調査がおこなわれた遺跡は二度と元に戻らないですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

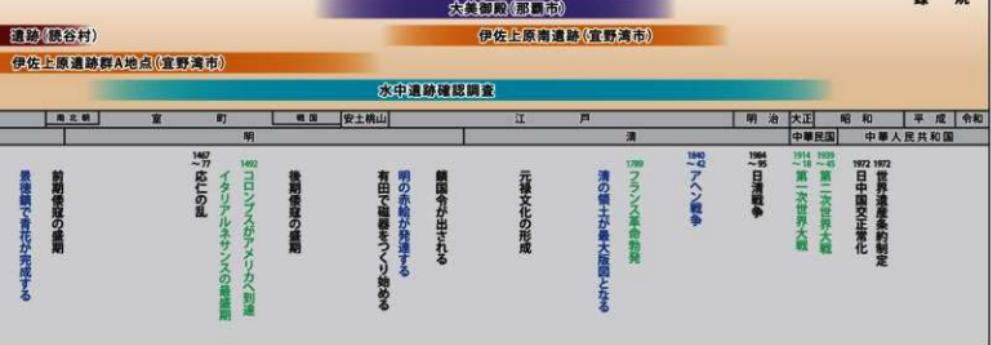
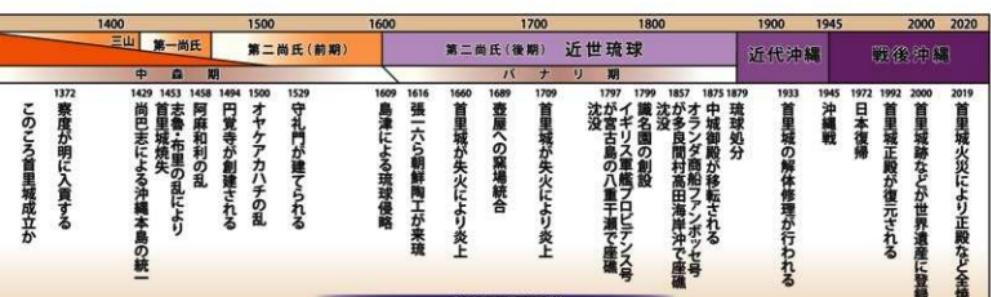
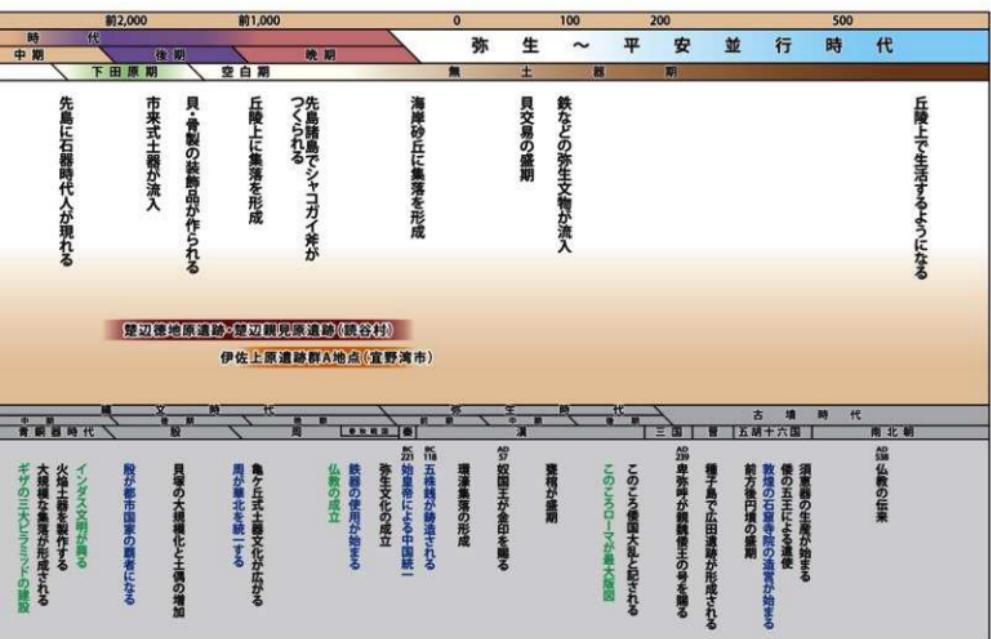
県内の発掘調査情報に関しては発掘調査を実施している市町村教育委員会、もしくは以下にお問い合わせください。

- 沖縄県教育庁文化財課 記念物班 埋蔵文化財担当 TEL 098-866-2731
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 調査班 TEL 098-835-8752

# 沖縄歴史年表

西暦	約200万～1万4,000	前1万4,000～5,000	前5,000	前4,000	前3,000
沖縄本島	旧石器時代			早期	中期
南北八重山				空白期	
沖縄の様相	港川人が現れる 自保人が現れる 山下洞人が現れる			局部磨製石斧が流入 曾畠式土器が始まる	土器の個性化が始まる
今日本列島となる					
日本	旧石器時代	新石器時代	新石器時代	新石器時代	新石器時代
中国					
日本・中国の様相	北京原人が現れる <small>アジア人・新人(エモ・サウスエンド)</small> 新人が東南アジアに到着する	局部磨製石斧を使用する <small>青字=日本 青字=中国 緑字=世界</small>	縄石刃を使用する 弓矢の使用が始まる 土器製作が発生する	縄文海溝が生れる 尖底土器を製作する	海溝が轟たる 平底土器製作する 仰韶(青)文化が形成される 黄河文明が始まる

西暦	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300
沖縄本島	弥生～平安並行時代			黒土器期	グスク時代			
南北八重山					新里村期	里村期	里村期	里村期
沖縄の様相	倭夷ら阿児奈波島に漂着 714 信覚・球美人らが帰明する このころ開元通宝が流入	751 僧真ら阿児奈波島に漂着		土器が無文化化するようになる	1187 燐天即位と伝わる 肉垂器・石錫・カムイヤキの流通 農耕が広まる			各地に大型グスクが現れる
今日本列島となる								
日本	古墳	飛鳥	奈良	平安時代	五代十国	宋	金	元
中国	隋	唐	唐	五代十国				
日本・中国の様相	710 平城京(大遷都) 707 法隆寺の建立 南北の大遷都の建設が始まる	705 運徳天皇の即位 710 運徳天皇の遷都	天平文化が形成される	このころ蚕桑業が興われる 國富文化が形成される	このころ鐵針盤・火薬の發明 慈氏氏の全盛	1126～1138 平治の変 源義の対立	南北朝の輸出が盛んとなる モンゴルの襲来	1274



令和2年度の  
調査成果を  
いち早く公開



## 文化講座

日 時：令和3年7月25日（日）  
14:00 - 16:00 (受付 13:30)  
定 員：50名 ※予約制  
受講料：無料  
会 場：当センター研修室  
講 師：当センター専門員

### 予約受付

日 時：7月13日（火）- 16日（金）  
9:00 - 17:00  
予約方法：電話での受付のみと  
なっております。  
☎ 098-835-8752(調査班 普及担当)

## 沖縄県立埋蔵文化財センター

休 所 日 月曜日（国民の休日・慰靈の日の場合は振替）  
国民の休日（ごどもの日・文化の日を除く）  
年末年始（12/28-1/4）・慰靈の日（6/23）※その他臨時休所あり  
開 所 時 間 9:00-17:00（入所は 16:30まで）  
住 所 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7  
電話番号 ☎ 098-835-8752/8751

新型コロナウイルス感染予防に  
ご協力お願い致します。

詳細は当センターホームページで。

□ 沖縄県立埋蔵文化財センター

